

「豊かな」社会の到来がもたらした地域生活空間・住空間の変容に関する日韓比較研究

1 プロジェクト研究メンバー

- 梅澤直樹 経済学部教授
- 山崎古都子 教育学部教授  
環境総合研究センター長
- 秋山元秀 教育学部教授
- 松田隆典 教育学部教授
- 筒井正夫 経済学部教授
- 阿部安成 経済学部助教授
- 宗野隆俊 経済学部助教授
- 李秀澈 名城大学経済学部助教授  
環境総合研究センター客員助教授

2 研究の目的と計画

経済成長は、一方でたしかに物質的に豊かな社会をもたらしたが、他方で社会を安定的に維持する役割を果たしてきた人々のきずなや地域社会の仕組みを弱めたり空洞化したりもしてきた。本プロジェクトは、「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容における研究」及び「地域の記憶を発掘し、地域力を生かした減災ネットワークの育成」といった、今年度の本センターの他のプロジェクトとも連携しながら、「近代化」に伴う地域生活空間の変容を、基礎単位としての世帯のライフスタイルの表現である住空間の変容をも含めて、日韓両国を比較しつつ検証し、sustainable societyを支える必須の条件のひとつとしての地域生活空間における人々のきずなを現代的条件のもとでいかに再構築しうるかを探ろうとするものである。

経済地理学、住居学、地方行政学、地方財政学、歴史学、環境社会経済学というように専門を異にするメンバーがそれぞれの領域で蓄積してきた研究成果を研究会での報告、討議を通じて活発に交わせ、さらにまた共同で韓国視察調査等を行うことを通じて学際的で新鮮な認識を培い、上記課題に迫るとともに、韓国の研究者をも訪ね、あるいは研究会に招き、積極的な交流を図る予定である。

3 今年度の状況報告

今年度は、秋山、山崎、松田の3名が韓国へ現地調査に出かけるとともに、韓国及び鳴門教育大学からゲスト報告者を迎えて公開の研究会を行うなどこれまで下記の3回の

研究会を実施した。2月にはさらに韓国からゲストを迎えるなど、年度内にあと2回の研究会を予定している。

研究会記録

第1回 日時：11月17日

場所：滋賀大学大津サテライトプラザ

報告者：山崎古都子環境総合研究センター長  
「韓国訪問調査の結果について」

第2回 日時：12月19日

場所：滋賀大学大津サテライトプラザ

報告者：秋山元秀教育学部教授  
「東アジアの空間構造

- 居住空間から地域空間まで - 」

第3回 日時：1月20日

場所：NPO法人ヒューマンサポート協会会議室

報告者：金貞均鳴門教育大学助教授

「韓国における生活空間の近代化の特徴」

金貞仁(株)ウリ研究員

「韓国における生活空間の近代化に果たす高層住宅の役割」(写真)

